

伝統・文化

伝統・文化に関連する内容には「伝統文化」マークを付しています。木造建築や木材の伝統的な接合技術などの例を紹介し、日本の伝統・文化を、誇りを持って継承していくことの大切さに気付かせるようにしました。

日本の伝統野菜

日本各地には、古くから栽培・利用されている伝統野菜があります。なかでもダイコンは中東・アジア原産で、中国から8世紀初頭に伝えられ、交雑や分化を繰り返して、温度、湿度、土壌の耕作深度などから、全国各地にその土地に合ったものが残りました。その後、品種として固定し、地域野菜として栽培され、今では100種類を超えるといわれるほど、多数の品種が根付きました。

江戸時代には、品種改良の技術が進み、江戸近郊で鶴岡大根、龍戸大根などの現在のダイコンの量と量な品種が生まれました。

図1 日本の寒冷地、中間地、暖地の分布図の例と伝統野菜

- 寒冷地 (分布図はあくまで目安)
- 中間地
- 暖地

岩国赤大根 山口県岩国市特産の外皮が赤いダイコン。日清・日露戦争時に中国から導入されたといわれる。

聖徳院大根 京都府左京区聖徳院特産。やわらかく、辛みが少ない。煮物に適している。

花弁大根 山形県長井市花弁特産。一般的なダイコンの3分の1の長さしかない。かたく芯が強いので、漬物に用いられる。

三浦大根 神奈川県三浦半島特産。昭和初期に自然交雑から選抜された品種。

守口大根 愛知県豊橋市特産。江戸時代に現在の大阪府守口市で栽培されていた。都市化とともに生産が途絶えていたが、地域住民により復活。長さ150cmに達する、世界一長いダイコン。「守口漬」の原材料。

◀日本の伝統野菜 p.109

伝統文化マーク

例:

- p.37 ほぞつぎ
- p.65 木材の伝統的な接合技術
- p.81 新国立競技場 (伝統と自然の活用)
- p.109 日本の伝統野菜
- p.134 生物育成の技術と環境との関わり

オリンピック・パラリンピック教育

「新国立競技場」の建築に生かされている技術を紹介するとともに、パラリンピックで活躍しているアスリートを支えるスポーツ用義足についても紹介しています。

図2 新国立競技場の建築に生かされている技術

◀リンク▶ p.36 技術の工夫を読み取ろう

地域の環境との調和

木と緑のひさで構成された建物が周囲の緑豊かな環境と調和し、訪問する人に温もりを与える。

丈夫な構造

木材と鉄骨を組み合わせた部材により、木の温もりを保ちつつ、丈夫さを実現する。

伝統と自然の活用

伝統建築に利用される木のひさしと緑豊かなテラスから夏の南風を取り入れて、自然エネルギーによって温暖環境を向上させる。

◀新国立競技場の建築に生かされている技術 p.81

▼人の力を補う材料と加工の技術 p.82

技術の匠

義肢装具士 日井 二美勇さん

スポーツをする喜び、生きる喜びを伝える義足を作りたい

30年ほど前に義肢装具士となり、これまで足に障がいがある人のために数多くの義足を作ってきました。義足を使っている人は日本に10万人近くいるといわれていますが、同じ形の人はいません。使う一人一人に合った義足を作ること、その人が何をやりたいのかを聞き、十分に使えるものを作ることが

いちばん大切です。スポーツ用義足に取り組んだのは、若くて元気な人であっても義足で走ることができない人が多かったことがきっかけです。最初は無理な人が走れるようになることに価値があると思っていましたが、走れることで自信が生まれ、その人がたくましく成長する、そのことに大きな価値や喜びがある、今は思っています。義足を使って走る喜びを伝えるために、いっしょに走る機会を作っています。そのときにいっしょに走った子どもたちが、将来、人のために働く仕事に就いたり、パラリンピック選手になったりすると、とてもうれしいです。

義足を調整する日井さん。

いじめを許さない

情報モラルへの対応



「安全に利用するための情報モラル」では、道徳教育との関連を図りつつ、インターネットや情報機器の利用について便利な点と注意すべき点を具体的に示し、情報モラルの必要性を実感できる構成にしました。情報モラルチェックでは、いじめに関連する内容にも触れています。

情報モラルチェック

3問目/10問

1. ○

2. *

質問1: 友人を騙るための実業家を探る形には、寄っている人全員を確認しましょう。

次の問題

▲ Dマークコンテンツ (情報モラルチェック)

4 情報の技術

【事例1】 情報検索の便利な点と注意すべき点

【事例1】 便利な点

さまざまな情報を簡単に入手することができる。

【事例2】 注意すべき点

正しい情報と間違えた情報や古い情報、一方的な視点からの意見などの情報がある。

【事例1】 全ての情報が正しいの？

インターネットでは、さまざまな情報をすぐに検索して入手することができますが、正確な情報もたくさんあります。その情報があくまで使えないものではない、検索者が個人が提供できる情報かどうかといった、正しい情報と間違えた情報を見分けたり、情報の信頼性を確認したりする必要があります。

【事例2】 全ての情報が安全？

検索により自分が見たい情報やデータを手に入れる。全ての情報やデータが適切、安全であるとは限りません。その情報があくまで使えないものではない、検索者が個人が提供できる情報かどうかといった、正しい情報と間違えた情報を見分けたり、情報の信頼性を確認したりする必要があります。

【事例2】 全ての情報が安全？

検索により自分が見たい情報やデータを手に入れる。全ての情報やデータが適切、安全であるとは限りません。その情報があくまで使えないものではない、検索者が個人が提供できる情報かどうかといった、正しい情報と間違えた情報を見分けたり、情報の信頼性を確認したりする必要があります。

【事例2】 全ての情報が安全？

検索により自分が見たい情報やデータを手に入れる。全ての情報やデータが適切、安全であるとは限りません。その情報があくまで使えないものではない、検索者が個人が提供できる情報かどうかといった、正しい情報と間違えた情報を見分けたり、情報の信頼性を確認したりする必要があります。

【事例2】 全ての情報が安全？

検索により自分が見たい情報やデータを手に入れる。全ての情報やデータが適切、安全であるとは限りません。その情報があくまで使えないものではない、検索者が個人が提供できる情報かどうかといった、正しい情報と間違えた情報を見分けたり、情報の信頼性を確認したりする必要があります。

▲安全に利用するための情報モラル p.207